

第464回鉄鋼流通問題懇談会

2024年1月31日(水) 14:30
茅場町「鉄鋼会館802+803」

議 題

1. 配布資料説明(全鉄連)
2. 全鉄連情勢報告
 - (1) 地区の状況
 - 東京(鉄流懇・提出資料参照)
 - 大阪、新潟、福井、兵庫地区概況報告
 - (2) その他地区の概況
 - 鉄流懇1月例会で発表の各地区業況アンケート結果
 - (3) 総括: 井上全鉄連会長
3. 意見交換
4. テーマ「2024年物流問題について」
メーカー、商社、全鉄連(井上会長、澁井副会長)、発言ごとに質疑応答
5. 総括: 赤木鉄流懇会長
6. 次回会議予定

2024年4月22日(月) 14:30～

於: 茅場町「鉄鋼会館4階」日本鉄鋼連盟・第一会議室

次回テーマ: 人手不足について

○従業員の定着率を上げるための対策について

⇒賃金アップ、労働条件の向上、テレワークの推進、フレックスタイム制導入、

IT化や設備投資による生産性向上、業界広報(CM等)…等。

○社内で行っている、取り組む予定の省力化、デジタル化に関する事例

⇒予定は無くても、今後、自動化できる余地のある作業の紹介でも構わない。

○将来的に、人手不足について不安を感じていること

発表項目	鋼管	薄板	厚板	棒鋼・形鋼
	メタルワン	住友商事グローバルメタルズ	阪和興業	エムエム建材
1. 需給動向（現況）	<p>特約店販売状況につき、大型物件/都市再開発等は引き合い数に減少傾向はなく、引き続き堅調(DPLなどの物流センター関連案件の引き合い数は落ち着き始めている)。中小建築物件の動きは悪く、在庫回転率が悪い状態が継続。メーカーからの販売価格は、高炉・溶協メーカーともに累計で80円/kgの値上げが実行されているが、年末・年明けには更に10円/kgの値上り要請が発表された。これを受けて、特約店は再販価格の見直しに動いており、マーケットとしては需要減少に伴う価格弱含み状況から底を打つとみられる。</p>	<p>2024年11月末薄板三品在庫（確報値）は、前月比1.0%減の382万3千トンとなり、3ヵ月連続で減少した。在庫内訳はメーカー在庫が前月比2万8千トン減の159万1千トン、問屋在庫が同4万6千トン減の79万9千トン、コイルセンター在庫が同1万9千トン減の143万4千トンとなった。在庫率は2.64ヶ月となり前月比0.11ポイント増加した。</p> <p>メーカーが減産を継続する一方、大手需要分野である自動車の生産回復が奏功した。直近の2年間では最も低い在庫水準にあるが、中小建築の低迷による店売り分野全般の需要不足や、自動車以外の製造業に勢いがいないことから、市中在庫の品薄感には至っていない。また、自動車メーカーの認証不正による生産停止影響も今後懸念される。店売市況は下げ止まり、高炉主原料コストの上昇に伴って海外市況は上昇に転じており、輸入鋼材の値上げオファーと共に東京製鉄の2月契約の売り出しが注目される。</p>	<p>月末の全国厚中板在庫は373千トンで前月比1,097トン減。出荷量が受け入れ量を上回り、14ヶ月連続の在庫減となった。在庫率は全国ベースでは前月比2.3ポイント下がり242.5%となった。在庫率減少傾向にあるが、適正在庫率と言われる200%を依然上回っている状況。</p> <p>需要に関して、建機分野ではショベル、クレーン、マイニング分野ともに需要減。24年度も人手不足もあり、さきゆき不透明感あり。建築は引き続き中小案件が足元鈍く、大型再開発案件待ちの状況。人手不足もあり稼働率低い。産業機械関連は中国需要減退に伴い、荷動き悪い状況が続く。全体的に荷動きが悪いこともあり、供給面ではタイト感を感じられない。</p>	<p>【棒鋼】年末年始という季節的要因も相俟って、新規商談は非常に少ない状況が続いている。しかしながら、メーカーでは輸送費用、人件費などのコスト増要因が重荷となっており、販価は堅持して行く方向に変化はなく、市況も強含み横ばいで推移している。</p> <p>【形鋼】近年、首都圏の再開発など大型案件が需要を牽引してきたが、ここに来て計画の中止、見直しや工期遅れなどが散見されており、2024年上期の仕事量に影響が出始めている。一方でメーカーはコスト増を理由に、運賃エキストラの改訂等による販価の改善に取り組んでおり、不穏な環境下においても、市況は強含み横ばいで推移している。</p>
2. 需要産業動向	<p>【建築土木】23年11月の新設住宅着工戸数は、前年同月比▲8.5%の6万6,238戸となり、6ヵ月連続の減少となった。種別では、持家が1万7,789戸(▲17.3%)、分譲住宅が1万9,578戸(▲5.2%)となった。(うち、マンションは7,671戸(▲5.2%)、一戸建て住宅は1万1,835戸(▲4.3%)と減少、また、貸家は2万8,275戸(▲5.3%)となった。</p> <p>【自動車】トヨタ自動車など国内の乗用車メーカー8社の11月の世界生産は、前年同月比+13%の238万3千台だった。10ヵ月連続の前年同月超えとなりメーカー別ではスズキとダイハツ工業を除く6社が前年同月を上回った。8社合計の国内生産は12.8%増の82万台で海外生産は13.2%増の156万台だった。</p> <p>【建設機械】11月の建設機械出荷金額は、内需は4.1%増加の1,012億円、外需は0.6%減少の2,212億円となった。</p> <p>【造船】10月の手持工事量は前月末比0.7%増の2,233万GTと3ヵ月連続の増加。9月の起工量は前年同月比24.9%減の70万GTと3ヵ月ぶりの減少となった。10月の輸出船契約量は前年同月比約4.5倍の97万GTと2ヵ月連続の増加となった。10月末の手持工事量は前月末比0.7%増の2,233万GTと3ヵ月連続の増加となった。</p>	<p>2023年11月の自動車国内販売は、38万6千台（前年同月比10.6%増）と、15ヶ月連続のプラス。乗用車が32万2千台（同14.0%増）、トラックが6万3千台（同4.0%減）となった。11月の民生用電気機器の国内出荷金額は、2.024億円（同101.4%）と2ヶ月ぶりのプラスとなった。ルームエアコンは前年比3ヵ月連続のプラス、冷蔵庫は同2ヶ月連続のマイナス、洗濯機は同5ヶ月連続のマイナスとなった。民生用電気機器全体では、製品価格の上昇が出荷金額を押し上げ、前年同月を上回った。国土交通省より発表された、11月の新設住宅着工戸数は6万6千戸（同8.5%減）と6ヶ月連続で減少した。持家は24ヵ月連続、貸家は4ヶ月連続、分譲住宅は6ヵ月連続で減少した。また、季節調整済年率換算値では前月比4.0%の減少となった。</p>	<p>造船の11月末輸出船手持工事量は2,243万GTで、10月比6若千増加となった。2023年度4-12月分の輸出船受注量は、前年同期比横ばいも76万GTと0.3万GT増加。2023年度4-11月分の輸出通関量も、前年同月比3%減576万GTと15万GT減少。これを受けて2023年11月末の輸出船手持工事量は前年同期比10%増の2,243GTと203万GT増加。</p> <p>建設機械の11月の出荷金額は内需が1,011億（前年同月比4%増、外需が2,212億（同1%減）、合計3,224億円で前年同月比横ばいとなった。総合計では37ヶ月連続で増加。大手建機メーカーの生産計画は下振れに変化し始めている。エンジンなど部品調達は変わらず低調の状態。</p> <p>産業機械の10月受注金額は内需が2,330億（前年同月比6%増）、外需が768億（同30%減）、合計3,098億円で前年同月比6.0%減。機種別では鉱山機械、原動機、タンク、ポンプ、圧縮機、変速機が堅調。</p> <p>建築に関して、鉄骨数量は2023年度432万トン。前年度比7%減。2024年度は前年度以下となる見通し。中小物件は盛り上がり欠けるが、都市再開発の大型案件は堅調</p>	<p>【棒鋼】国交省発表の11月の住宅着工戸数は66,238戸で前年同月比▲8.5%となり、そのうちマンションは7,671戸で前年同月比▲5.2%、戸建て住宅は11,835戸で▲4.3%という結果となった。住宅関連等の引き合いは低調な状況が続いているが、需要家に焦りはなく落ち着いており、原料コストの高止まりや輸送・人件費のコスト増を受けた値上げが実行されるとの観測から、先高観が醸成されつつある。</p> <p>【形鋼】2023年10月の建築着工統計に基づく換算鉄骨量は41万トンと前年同月比で26%増となった。ここ数年、活況であった物流倉庫案件はピークを過ぎ、データセンター案件や半導体関連にトレンドが移りつつある。再開発の動きは変わらず旺盛であるが、2024年問題の影響による工期ずれや人手不足が懸念されている。</p>
3. 輸出入動向	<p>2023年11月度鋼管輸出量 総目無鋼管：1万6,353トン（前月比▲18.5%） 溶鋸接鋼管：2万7,300トン（前月比+72.3%）</p> <p>2023年11月度鋼管輸入量 総目無鋼管：1,404トン（前月比+9.9%） 溶鋸接鋼管：1万88トン（前月比+28.0%）</p>	<p>11月の薄板三品輸入量は30万7千トン（前年同月比14.0%増）であった。主要品種別では、熱延が13万1千トン（同9.7%増）、冷延が6万5千トン（同7.2%減）、亜鉛めっきが11万1千トン（同39.0%増）となった。11月末の輸入岸壁在庫は13万5千トンとなり、前月比で1万トン減少した。</p> <p>前月10月に続き輸入が30万トンを超え、増加傾向が続いている。中国材の恒常的な輸出増加に押し出される形で、韓国・台湾からの入着も増加している。関東では港湾倉庫保管能力が限られ慢性的に滞船が続き、輸入材入着の抑止効果になっているが、今後も高水準の入着が続くとみられる。</p>	<p>5月の輸入通関実績は前月比12千トン減の30千トン。中国からは1千トン、韓国が28千トン（前月比5千トン減）、台湾が1千トン（前月比1千トン減）となった。</p> <p>11月の輸出船積実績190千トン（前月比69千トン増）。中国向けで18千トン増、韓国向けは17千トン増、東南アジアでは161千トン増、欧州向けは116千トン減となった。</p>	<p>直近の実績（23年11月統計データ）にみる輸出入状況は （輸出）形鋼：59千MT（前月比10.2%増、前年同月比1.0%増） 棒鋼：33千MT（前月比13.1%増、前年同月比41.1%減） （輸入）形鋼：12.5千MT（前月比15.2%増、前年同月比39.2%増） 棒鋼：1.5千MT（前月比25.0%減、前年同月比40.0%増）</p> <p>※形鋼は輸出入共にH形鋼以外も含む 棒鋼の輸出については、最大の輸出国である韓国の不動産不況の影響で前年比大幅減となっている。一方、形鋼輸入に関しては大きな数量ではないが、海外FABの起用増加の影響により前年比増加となった。</p>
4. 海外市場動向	<p>原油価格は大幅暴落。12月平均WTIは72.08ドル/バレルとなり、3ヶ月前（9月平均89.58ドル/バレル）に比して約20%下回った。米国リグカウント数は略横這い（9月最終週：623、12月最終週：620）。米国市中油井管の在庫調整が進み、相場底打ち気配。</p>	<p>世界鉄鋼協会がまとめた世界71カ国の11月の粗鋼生産量は前年同月比3.3%増の1億4,550万トンと2ヶ月連続で前年実績を上回った。中国は動増も、インド・韓国などが大幅に増加し、全体を押し上げた。1-11月累計では前年同期比0.5%増となった。中国は、12月の粗鋼生産を大きく調整し、暦年で10億2千万トンと前年並みを達成した。中国経済の景気対策効果は限定的であり、インフラ投資が減速し、不動産関連投資はマイナス幅が拡大する中で、余剰数量が海外に流れる構図は変わらず、アジアの鋼材市況の足かせとなっている。</p>	<p>中国の景気は持ち直してはいる。続落していた中国市況も底値をつき、反転の兆しはあったが、実需に伴ってはなく、市況は依然低調。韓国も国内需要低迷が続く、造船業界もピッチが上がりづらい状況。韓国メーカー3社の23年1-9月の販売量は643千トンで前年同期比4%増、国内販売量は476万トンで前年同期比6.7%減少、輸出量は177万トンで前年同期比26%増加。</p>	<p>中国の不動産不況が続く中、12月11日～12日に開催された「中央経済工作会議」においても、不動産セクターへの大規模な景気刺激策は発表されなかったことから、建材製品の市況も上位が重い状態が続いている。一方、製造・自動車分野における鋼材需要は世界的にも堅調さを見せており、今後見込まれている欧米各国での金融緩和への期待と高止まりしている鉄鋼原料価格を背景に市況反転の動きが明確になっている。当面各国millはコスト増に伴う強気な販売姿勢を堅持するものと見られ、当面市況は強含みでの推移が見込まれる。</p>

鉄鋼流通問題懇談会（2024年1月）

発表者	メーカー
発表項目	JFEスチール
1. 需給動向（景況感）	<p>(国内)・12月の日銀短観では企業の景況感を表す業況判断指数(DI)が大企業・製造業で前回(9月)調査比+3の+12と良化。先行きは+8と4ポイントの悪化。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家計部門について、11月の小売業販売額は前年同月比+5.3%と21ヶ月連続の上昇。物価上昇の影響等もあり、上昇が継続。 ・製造部門では11月四輪車生産は前年同月比+11.7%と増加傾向が継続も、11月の機械受注は前月比▲4.9%と3か月振りの減少。 ・建築部門では11月の全建築物建築着工床面積は851万㎡(前年同月比▲11.0%)と減少傾向が継続となった。 <p>(海外) 米国：金利政策の先行きに不確実性もある一方で、雇用、個人消費などは引き続き底堅く、通年では緩やかな成長となる見込み。 欧州：根強いインフレと高水準の金利の影響があるも、インフレ沈静化も見られ始め、24年に掛けて回復の兆しが見える。 中国：主要産業である不動産市場の低迷が長期化しているほか、輸出が減少し、企業の生産も伸び悩むなど景気は一段と減速。3月に全人代も控える中、政府主導の経済対策の動向に注視要。</p> <p><国内鉄鋼需給></p> <p>(生産)・23年12月の粗鋼生産(速報)は698万tと前年同月比で2ヶ月振りの増加。 (出荷)・11月の普通鋼国内向け出荷は313万トンと2ヶ月連続の前年同月比減。 (在庫)・11月末の普通鋼鋼材国内向け在庫は511万トン3ヶ月連続の前月比減。 ・11月末の薄板3品在庫は384万トン(前年同月▲3万トン)で400万tを下回るレベルが継続。 ・11月末の厚板シャー在庫は37万トンで15か月連続の減少。</p>
2. 需要産業動向	<p>[建 築]・11月の新設住宅着工戸数は6.6万戸(前年同月比▲8.5%)で6ヶ月連続の減。持家、貸家、分譲いずれも減。 ・11月の非住宅着工床面積は317万㎡(同▲9.8%)で3か月振りの減。事務所、店舗で減。</p> <p>[自動車]・12月の国内販売(輸入車除く)は32.9万台(前年同月比+5.0%)。16か月連続の増加。 ・11月の完成車輸出は40.0万台(同+7.5%)で10か月連続の増。 ・11月の四輪車生産は85.7万台(同+11.7%)で11ヶ月連続の増。</p> <p>[造 船]・11月の新造船受注量は92万GT。手持工事量は2,243万GTと2千万台を維持。</p>
3. 輸出入動向	<p>[輸出]・11月の全鉄鋼輸出は259万トン(前年同月比▲7.0%)で5ヶ月振りの減少。 [輸入]・11月の鋼材輸入(普通鋼・ステン鋼・その他合金鋼計)は45万トン(前年同月比+10.8%)と10ヶ月連続の増。</p>
4. 海外市場動向	<ul style="list-style-type: none"> ・12月の世界粗鋼生産は1億3,570万トン(前年同月比▲5.3%)で3か月振りの減。 ・12月の中国粗鋼生産は6,740万トン(同▲14.9%)。 ・12月の中国鋼材輸出は773万トン(同+43.1%)。 ・中国市中在庫は、1月19日時点で992万トン(同▲14.6%)。